

次世代AI人材育成訓練プログラム

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容:いつでもどこでも自学習できる環境のもと、全124時間のプログラムを通して「ディープラーニングをはじめとした様々なAIの要素技術」「様々な業種のAI活用ソリューション事例」「AIをビジネスで活用するための手法(クラウドを活用したビジネス等)」を身につける。
訓練の対象となる業種・職種等:ITSSレベル2～3の技術者、オブジェクト指向言語プログラミングの基礎(Python etc)、ネットワーク、クラウドコンピューティングの知識がある。加えて、線形代数、統計確率、微分(偏微分)の知識があることが望ましく、必要に応じてeラーニングで補うことができる環境がある。

(受講のメリット)

- ・実習、演習、フィールドワークなどのアクティブラーニングを中心としたカリキュラムと、具体的なビジネス活用例により、実践的なスキルを身に付けることができる。
- ・受講後の、ジョブカードを用いたキャリアコンサルタントによる無料アドバイスにより、自らのスキルと本プログラムの業務への活用を考える時間ができる。

(実施した時の環境等)



訓練の内容: 次世代AI人材育成訓練プログラム
募集期間 : 2020年7月10日～8月21日
受講人数 : 27人
受講日時 : 2020年9月1日～11月20日 平日、土曜日日中(10:00～17:00)
会場 : 東京(15名)、大阪(12名)、および、オンライン(ZOOM)

受講生のための配慮:

- ・授業風景のZoom録画映像を、受講者専用サイトでプログラム終了まで配信し、欠席時や振り返り学習に活用。
- ・MS-Teamsなどのコミュニケーションツールにより、講師が受講者からの質問に対応。

新型コロナウイルス感染防止対策:

- ・希望者にはオンラインでのリモート参加を常時可として実施

区分 : AIを活用した分野

(訓練を実施する上で注意する点)

訓練の内容: リアルとオンラインのハイブリッドによる演習中心の実践的なプログラム

訓練時間数: 全124時間、うち講義47.5時間、演習76.5時間(フィールドワーク8時間を含む)。

(訓練を実施する上で推奨される取り組み事例)

- ・124時間という長期の講座となるため、受講者の上司は、受講後の業務への活用など目的意識を持った送り出しが必要である。
- ・講師と受講者の間で、コミュニケーションツールを使用した情報の一元化及びコミュニケーションの円滑化を図る。
- ・配信側においては、回線の安定化を図る(有線回線を基本に考える)。
- ・メイン講師とサブ講師の間で、講義の進行や講義中のコミュニケーションについて事前に十分なすり合わせを行う。
- ・複数会場でのオンライン同時展開を想定する場合は会場ごとに講師を確保するほうがよい。
- ・参加者の技術レベル・数学レベルは可能な限り揃え、力量の差を少なくすることで訓練効果の向上を図る。



(受講者等からの声)

受講者アンケートによる受講満足度: 「とても満足(62%)」+ 「満足(38%)」

- ・AIの知識を系統だてて学べたので、たいへん勉強になった。
- ・現在仕事で担当している内容で、改めて学ぶことにより、振り返りで基礎力の見直しが出来たと思う。
- ・実践を通じて、ニューラルネットワークの概要が理解できました。
- ・講義の後で動画が公開されたことで、業務都合で欠席しても自学できたので遅れずについていくことができた。

(受託事業者) 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

(詳細・問い合わせ先)

厚生労働省HP: URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/program_development_text.html#ai2

厚生労働省人材開発統括官付参事官室(人材開発政策担当)政策企画室事業係 03-5253-1111(内線5648)